

01. ポスタービジュアル

### ■ 開催概要

会期 2022年6月13日(月)-2023年2月12日(日)

休館日 火曜日、年末年始(12月27日-1月3日)

開館時間 10:00-19:00 (入場は18:30まで)

\*ただし、6月13日(月)-17日(金) は13:00-19:00(入場は18:30まで)

一般 1,200 円、大学生 800 円、高校生 500 円、中学生以下無料 入場料

\*ギャラリー3は入場無料

会場 21 21 DESIGN SIGHT

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-6 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン

tel. 03-3475-2121 www.2121designsight.jp

アクセス 都営地下鉄大江戸線・東京メトロ日比谷線「六本木」駅、

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅より徒歩5分

21 21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団 主催

後援 文化庁、港区教育委員会、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

特別協賛 三井不動産株式会社 協賛 株式会社イッセイミヤケ

特別協力 クリスト・アンド・ジャンヌ = クロード財団、柳 正彦

展覧会ディレクター パスカル・ルラン

グラフィックデザイン 野間真吾 会場構成 中原崇志

遠藤 豊 (LUFTZUG) テクニカル

ディレクション

21 21 DESIGN SIGHT ディレクター 三宅一生、佐藤 卓、深澤直人

アソシエイトディレクター 川上典李子

プログラム・マネージャー 中洞貴子 プログラム・オフィサー 西田麻海江

### ■ プレスビュー

2022年6月13日(月)、15日(水)-17日(金) 10:00-13:00 プレスビューへの参加をご希望の方は下記URLまたは右のQRコードからお申し込みください。





### 21 21 DESIGN SIGHT 企画展

# クリストとジャンヌ = クロード"包まれた凱旋門"

2021年9月、パリのエトワール凱旋門が布で覆われると、周囲は人々の歓声に包まれました。現代美術作家 クリストとジャンヌ=クロードが出会い、創造活動の一歩を踏み出したパリで 1961 年に構想し、悲願の夢でも あったプロジェクト「L'Arc de Triomphe, Wrapped, Paris, 1961-2021 (包まれた凱旋門)」が現実のものと なった瞬間でした。

21\_21 DESIGN SIGHT では、2022 年 6 月 13 日より 2023 年 2 月 12 日まで、企画展「クリストとジャンヌ= クロード"包まれた凱旋門"」を開催します。「包まれた凱旋門」とは、エトワール凱旋門が 16 日間にわたり、 銀色のコーティングが施された再生可能な青い布 25,000 ㎡と 3,000m もの赤いロープで包まれたプロジェクト です。本展ではこの「包まれた凱旋門」の制作背景と実現に向けた長い道のりに焦点をあて、二人の人生に おいて貫かれたものを紐解きます。

1935 年 6 月 13 日、同じ年の同じ日に別々の場所で生まれたクリストとジャンヌ=クロードは、1958 年秋のパリ で運命的に出会い、アーティストとしての活動を始めます。その後 1964 年にニューヨークへ渡り、二人は世 界中で驚きに満ち溢れたプロジェクトを実現させていきます。2009年にジャンヌ = クロードが逝去した後も、 二人が夢見たプロジェクトの実現に向けて、クリストは創作活動を続けました。「包まれた凱旋門」のプロジェ クトもそのひとつでした。当初 2020 年に実現予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となり、 クリストは完成を見ることなく同年 5 月に他界。その後、多くの賛同者の協力のもと、構想から 60 年という歳月 をかけて、2021年9月に実現の日を迎えたのです。

本展は、ヴラディミール・ヤヴァチェフをはじめとするクリスト・アンド・ジャンヌ=クロード財団の協力を得 て開催されます。多くの記録画像や映像を使って、本展ディレクターで映像作家でもあるパスカル・ルランの シネマティックな表現により「包まれた凱旋門」の構想から実現までを新たな体験としてつくり出します。

長い年月をかけ、さまざまな困難を乗り越えて実現へと向かう、ポジティブで力強い姿勢。また、そのような 二人の強い思いの元に集まってきた仲間たちの存在があるからこそ、今までだれも見たことのない作品を生み 続けることができるのです。夢の実現に向けたクリストとジャンヌ=クロードの姿勢は、アートやデザインのみ ならず日常におけるさまざまなチャレンジにも勇気を与えてくれるでしょう。

### ■ ディレクターズメッセージ

クリストが描いたドローイング作品に始まり、ついにパリで実現した「包まれた凱旋門」。世界的に 有名なモニュメントが布とロープで包まれ、多くの来場者の関心を集めました。それは、「親愛なる」 クリストとジャンヌ゠クロードという二人のアーティストとその作品に対する人々からの愛情と尊敬の念 を物語っています。

何年にもわたり、二人のカリスマ性と創造性により多くのサポーターが集まり、ファンが協力者となり ながら、一時的で壮大なプロジェクトの完成を支えました。その多くが友情関係で結ばれ、それぞれ の熟練の技を持ち寄り、さらに洗練された創作活動のために力を発揮しました。例えば、写真家のウ ルフガング・フォルツは今回展示されている写真の多くを撮影していますが、50年前という非常に早 い時期から二人の活動と作品を撮影し続けているのです。そうした人々の集まりが強い絆で結ばれた 「ワーキング・ファミリー」となり、プロジェクトは都市や自然、水面や砂漠、燃えるような太陽や雪の 中へと広がってゆきました。

華々しい実績やそのスケール、人々の歓喜は、この二人のアーティストからの贈り物であるといえます。 高い目標を掲げ、それを達成する忍耐力と才能を垣間見ることで、私たちはそこから学ぶことができ るのです。

この展覧会は、クリストとジャンヌ = クロードが出会い、二人が1960年代にアヴァンギャルドなアー ティストになったパリから始まります。1962 年には、パリでの最初のプロジェクト、ヴィスコンティ通り の「ドラム缶の壁=鉄のカーテン」を実現しました。その後、活動の拠点をニューヨークに移しました が、1985年には再びパリで「包まれたポン・ヌフ」という大規模なプロジェクトを完成させます。「包 まれた凱旋門」の実現は、二人のこれまでの創作活動がもたらした集大成のひとつだといえるでしょう。

クリストとジャンヌ = クロードの凱旋門のプロジェクトの構想は、1961 年まで遡ります。その華々しい 場所には、あの有名なシャンゼリゼ大通りをはじめとする12 本もの主要なアヴェニューが集結してい ます。60年の年月を経て彼らの構想はここに結実したのです。

長いプロセスの中には準備、設置、そして展示という3つのステップがありました。

パリで最も賑やかな環状交差点の中心にある、この象徴的なモニュメントを 16 日間にわたって包むた めに、エンジニア、行政関係者、施工業者、製造メーカーなどあらゆる専門家が密に連携をとりながら、 二人の理想に向けての解決策を提案してゆきます。

当初2020年に予定されていましたが、クリストの甥であるヴラディミール・ヤヴァチェフに率いられた、 クリストとジャンヌ = クロードの「親愛なるチーム」によって、ついに 2021 年に「包まれた凱旋門」は 完成しました。

この展覧会は、彼らの素晴らしいプロジェクトとそれに対するパリからの愛情を示すものなのです。

パスカル・ルラン



02. パスカル・ルラン

#### パスカル・ルラン (Pascal Roulin)

映像ディレクター、デザイナー、プロデューサー。

ベルギー生まれ。19歳からパリとカナダで長編映画の制作を始める。1977年にパリに移り、1996年から 映像制作会社 pHstudio (東京) のアソシエイトとして制作活動を続ける。2002 年から東京在住。 実写、CG、アニメーションといった手法で、TV コマーシャル、ミュージックビデオ、オペラ、モーションライド、

現代アート、建築、博覧会、童話、科学などの分野で数多くの作品を制作。

1998年から現在まで、三宅デザイン事務所との協働により、映像、展覧会、商品、書籍、ロゴのデザイン を手がける。21\_21 DESIGN SIGHTの企画展では、「200∞年 目玉商品」展(2008年)、「REALITY LAB- 再生・再創造」展 (2010 年)、「アーヴィング・ペンと三宅一生 Visual Dialogue」展 (2011 年) 等 に参加。

リンツのアルス・エレクトロニカでゴールデン・ニカ賞を受賞 (1993年)。その他、プラネタリウム作品 (日本科学未来館)、IMAX作品(セビリア万博、フランスパビリオン、1992年)、トロントのIMAX Space Team とのコラボレーション、アニメシリーズのコンセプトデザイン (日本/米国、2019-2021年)、 彫刻作品集の共同監修などを手がける。

### ■ クリストとジャンヌ = クロード



03 クリストとジャンヌ = クロード ニューヨーク、ソーホーの自宅にて、2004年9月26日 (Photo: Wolfgang Volz ©2004 Christo and Jeanne-Claude Foundation)

クリストは 1935 年 6 月 13 日、ブルガリアのガブロヴォで生まれました。ジャンヌ=クロードは同年同日にモロッコのカ サブランカで、フランス人の両親の元に生まれました。クリストは1956年にブルガリアを離れ、まずチェコスロバキア のプラハへ、1957年にはオーストリアのウィーンに亡命し、その後スイスのジュネーブに移り住みます。1958年、パリ に渡ったクリストは、妻であると同時に生涯にわたる共同制作者となるジャンヌ=クロードと出会い、モニュメンタルな環 境芸術作品を制作することになります。2009 年にジャンヌ=クロード、2020 年にクリストはこの世を去りました。

初期の「包まれたオブジェ」、「パッケージ」からモニュメンタルな屋外プロジェクトまで、クリストとジャンヌ=クロード の作品は、絵画、彫刻、建築といった従来の枠を超越したものでした。彼らの作品には、「包まれた海岸線、100万 平方フィート、オーストラリア・シドニー、リトル湾、1968-69」、「ヴァレー・カーテン、コロラド州ライフル、1970-72」、「ランニング・フェンス、カリフォルニア州ソノマ郡とマリーン郡、1972-76」、「囲まれた島々、フロリダ州グレー ター・マイアミ、ビスケーン湾、1980-83」、「包まれたポン・ヌフ、パリ、1975-85」、「アンブレラ、日本=アメリカ 合衆国、1984-91」、「包まれたライヒスターク、ベルリン、1971-95」、「ゲート、ニューヨーク市セントラルパーク、 1979-2005」、「フローティング・ピアーズ、イタリア・イセオ湖、2014-16」、「ロンドン・マスタバ、ハイドパーク、サー ペンタイン湖、2016-18」などがあります。

21\_21 DESIGN SIGHT では、特別展「クリストとジャンヌ=クロード展 LIFE=WORKS=PROJECTS」(2010年) の開催に合わせて来日したクリストが、トークイベントに出演しました。企画展「『そこまでやるか』壮大なプロジェクト展」 (2017年)では、「フローティング・ピアーズ、イタリア・イセオ湖、2014-16」を映像やドローイングで紹介しました。

### ■ 展示内容・会場写真(撮影: 吉村昌也)

本展はパリでの出会いに始まり、「包まれた凱旋門」の実現までの約60年間という長い道のりを、構想、準備、 設置、実現の段階に沿って展示します。

地下ロビーでは、ニューヨークのスタジオで「包まれた凱旋門」のドローイングを描くクリストの様子を紹介する 動画を展示。ギャラリー]では、凱旋門の模型を中心に、「包まれた凱旋門」の準備を行うクリストの様子を映 像で紹介します。

ギャラリー2では、「包まれた凱旋門」をさまざまな視覚手法で再構成する空間インスタレーションを展示します。 ナショナルモニュメントを守りながら工夫を凝らして設置していく様子から、実現して人々の驚きや歓喜に包まれ るまでを、まるで一本の映画の中にいるように、ダイナミックな空間を通して体験できます。またワーキング・ファ ミリーを含め、プロジェクトの実現に尽力した14名のインタビュー映像を通して、クリストとジャンヌ=クロード の人間性や、創造の大きな力、実現の喜びを感じていただけます。

その他、このプロジェクトのために製作した布とロープも展示します。



A. 会場風景 (地下ロビー)



B. 会場風景 (ギャラリー1)



C. 会場風景 (ギャラリー1)



D. 会場風景 (ギャラリー 2)

# ■ 展示内容・会場写真(撮影: 吉村昌也)



E. 会場風景 (ギャラリー2)



F. 会場風景 (ギャラリー2)



G. 会場風景 (ギャラリー2)



H. 会場風景 (ギャラリー2)



I. 会場風景 (ギャラリー2)



J. 会場風景 (ギャラリー2)

### ■ プレス画像



04. クリストとジャンヌ=クロード「包まれた凱旋門、パリ、1961-2021」 (Photo: Wolfgang Volz ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



(Photo: Benjamin Loyseau ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



ニューヨーク、2019 年 9 月 21 日 (Photo: Wolfgang Volz ©2019 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



07. 凱旋門の柱前面の彫刻を守るために、鉄の枠を設置している様子 (Photo: Wolfgang Volz ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



08. 凱旋門の外壁の前面に布を広げている様子 -1 (Photo: Benjamin Loyseau ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



09. 凱旋門の外壁の前面に布を広げている様子 -2 (Photo: Wolfgang Volz ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)

## ■ プレス画像



10. 凱旋門の布を固定し、輪郭を整えるためのロープが設置されている様子 (Photo: Benjamin Loyseau ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation)



11. Photo: Benjamin Loyseau ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation



12. Photo: Lubri ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation



13. Photo: Benjamin Loyseau ©2021 Christo and Jeanne-Claude Foundation

### ■ 関連プログラム

#### オープニングトーク「『包まれた凱旋門』の実現とこれから」

6月23日(木) 20:00-21:30 日時

場所 Zoom 配信

出演 パスカル・ルラン (展覧会ディレクター)

> ヴラディミール・ヤヴァチェフ (クリスト・アンド・ジャンヌ = クロード財団) ロレンツァ・ジョヴァネッリ (クリスト・アンド・ジャンヌ = クロード財団)

川上典李子 (21\_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター)

言語 日本語、英語(逐次通訳)

特別協賛 三井不動産株式会社

#### 関口光太郎によるワークショップ

日時 夏季期間中

場所 東京ミッドタウン プラザ B1

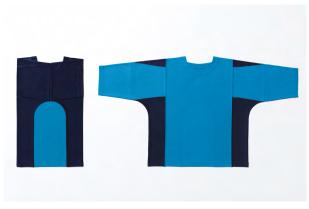
特別協賛 三井不動産株式会社

会期中、このほかにも関連プログラムの開催を予定しています。詳細は決まり次第ウェブサイトやメールニュースなどでお知らせいたします。

### ■ 21 21 NANJA MONJA

21\_21 DESIGN SIGHT は、驚きに満ち溢れたユニークなプロダクトを紹介する「21\_21 NANJA MONJA (とう一わんとう一わんなんじゃもんじゃ)」をオープンいたします。21\_21 NANJA MONJA という名称には、 「なんだこれは!」というこれまでにない発見や新しい体験を提供するギャラリーショップでありたいという思い が込められています。企画展「クリストとジャンヌ=クロード"包まれた凱旋門"」会期中は、2021年にパリで 実現したプロジェクト「包まれた凱旋門」をイメージする展示とともに、二人に関連する書籍やグッズを多数取り そろえます。また、固定概念に囚われない自由な発想から生まれた、「なんじゃもんじゃ」 なオリジナルプロダクト の数々もご紹介いたします。

本展とあわせて、驚きと喜びに満ち溢れたプロダクトをお楽しみください。







15. PATA PATA METALLIC (21\_21 NANJA MONJA 取扱商品)